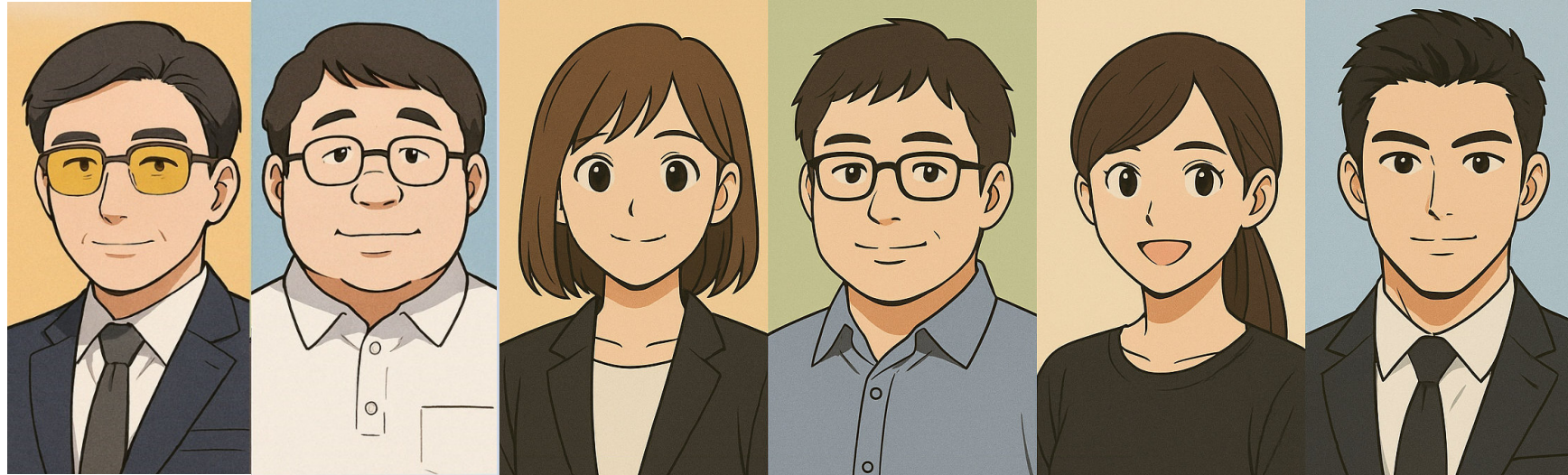


登場人物紹介



<p>根来 誠一 (ねごろ せいいち)</p> <p>産業振興部長で、総務省要綱を「読み物」として楽しむレベルの制度オタク。しかしその説明は驚くほど柔らかく、理解しやすい。</p> <p>真顔で核心を突くが、急に関西のノリになることも。</p> <p>仕事も人生も「丁寧さ」がモットー。</p> <p>隊員にも職員にも優しい“庁内の知恵袋”。</p>	<p>岩倉 昭三 (いわくら しょうぞう)</p> <p>産業振興課の課長で、岩出を愛しすぎて、何かと「岩出ええとこやで！」が口癖。昭和の香りがぷんぷんするが、誰より温かい人情の持ち主。</p> <p>地域の行事・人・歴史に詳しい“岩出の歩くウィキペディア”。</p> <p>しかし説明が長く脱線がちで、部長に止められるのが日常。</p>	<p>中迫 菜穂 (なかさこ なお)</p> <p>産業振興課の職員で、岩出市で初の協力隊受入担当を務める“静かな実務家”。</p> <p>表情は控えめだが、心は熱い。</p> <p>丁寧・誠実・堅実・そして粘り強い。</p> <p>隊員の変化にすぐ気づく観察力。</p> <p>ノートを見たら、ものすごく綺麗に整頓されている。</p> <p>課長をいじるのが最近のブーム。</p>	<p>黒坂 創平 (くろさか そうへい)</p> <p>観光協会会長で、地域の歴史も人も感情も、すべて知っている“生きた町の記憶”。</p> <p>穏やかな語り口に、人を安心させる力がある。</p> <p>地域の声の代弁者であり、若者にも優しく器が大きい。</p> <p>鳥が止まりそうなほど“やさしい肩”。</p> <p>高瀬さんが岩出に来たことを心から喜んでいる。</p>	<p>高瀬 彩葉 (たかせ いろは)</p> <p>東京から移住し、岩出市の地域おこし協力隊第1号。</p> <p>明るさ・行動力・吸収力の3連コンボで地域に風を起こしつつある。</p> <p>「分からないことは5秒以内に質問する」特技あり。</p> <p>SNS発信力が高く、文章に光るセンスを持つ。</p> <p>素直で可愛げがあり、地域の人にも受け入れられやすい。</p>	<p>新田 光輝 (にした こうき)</p> <p>産業振興課の職員で、多くを語らないが、頭の中に“市政全体 map”が常にあるタイプの仕事人。</p> <p>一言が深い。協力隊制度の本質を理解しており、導入にあたり慎重だが前向き。</p> <p>無駄な言葉を削ぎ落とすタイプ。</p> <p>静かな存在感。</p> <p>みんな密かに頼りにしている。</p>
---	---	---	--	---	--

【第1節】地域おこし協力隊制度とは

1-1 制度の目的と背景



「部長、第1章の“制度の目的”どう書きます？
せっかくなら、会話形式で“読みやすい手引き”にしたいんですが...。」

「ええやんええやん。制度は字面だけ見てもピンと来んからな。
じゃ、まず制度の本質から話そか。」



「本質...ってなんですか？」

「協力隊制度の本質はな、
“地域に新しい人が入り、人と地域と一緒に育つ仕組み”や。
地方が人手不足で困った頃に始まった制度で、
“外の力を頼って地域を元気にしよう”という考えが背景にある。」



「わしら地域の側も、若いもんが入ってきてくれたら嬉しいんや。
けど“ただ来てくれたらええ”んと違って、
地域と一緒に汗かいてくれる人がほしくてな。」

「汗かく...？ 僕もよう汗かくで！
特に唐揚げ食う前後が一番かく！ ぐふふ！」



「課長の汗事情は不要です。」

【第1節】地域おこし協力隊制度とは



「制度の目的は大きく3つや。」

- ① 地域の課題解決・活性化につながる活動の推進
- ② 地域に新しい視点を生み出し、未来の担い手をつくる
- ③ 隊員自身のキャリア形成・成長支援

「“地域を助ける人材”って感じではなく、“一緒に未来をつくる仲間”なんですね。」



「その通り。行政が足りない部分を“補うだけ”やなくて、地域が変わるきっかけを生む存在になってほしいという制度や。」

「制度を“労働力”と誤解してしまう自治体もありますが、総務省が明確に“地域づくり人材”と定義していますからね。」



「ええなあ“地域づくり人材”...！
僕もなりたいけど、
“食べすぎをどうにかする人材”になりつつあるね。」

「方向性が違う。」



【第1節】地域おこし協力隊制度とは

1-2 地域おこし協力隊の役割とは？



地域の方「協力隊さんって、具体的に何する役なん？」

「そ、それが...説明が難しくて...。」



「協力隊の役割はな、
“何でも屋”でも“行政の手足”でもない。
『地域の未来を一緒に考えて試すパートナー』や。」

地域の方「パートナーか...！」



「実際の役割は大きく3つあります。」

- ① “地域に入る”役割
—人間関係づくり・地域理解
- ② “地域の課題や魅力を見つけ、整理する”役割
—地域の棚卸し・発信・調査
- ③ “地域と行政の間に立つ”役割
—地域・団体・行政をつなぐ調整



【第1節】地域おこし協力隊制度とは



「つまり、よそから来たからこそ見える“気づき”を地域に届けてくれるんや。わしらだけでは気づかん部分が多い。」

「僕は“いきつけの唐揚げ屋さんのちょっとした味の変化”すぐに気づくけどな！嗅覚が鋭いんよ。」



「課長は気づきが偏ってますから。」

「なんとなくモヤモヤしていた“自分の立場”が、少し理解できました。」



「協力隊は“地域の外から来た仲間”と覚えておくとええ。仲間に雑用は押し付けへんやろ？一緒に未来をつくる存在や。」

【第1節】地域おこし協力隊制度とは

1-3 全国の課題と成功要因



「部長、全国では“失敗した”ってケースも聞きますし、何を気をつければいいんでしょうか...？」

「あるあるやな。」

全国の失敗例にはだいたい“3大パターン”があるんよ。」

- ✕ ① 役割が曖昧で“便利屋化”する—「とりあえず隊員に頼んどこか」状態
- ✕ ② 地域との関係づくりが遅れ、孤立する
- ✕ ③ 任期後の未来が見えず不安が増す—キャリア支援が弱い自治体で起きやすい



「全部怖いです...。この3つ全部経験する気が...。」

「安心せい。成功している自治体は共通点があっさりしてる。」

■ 成功自治体の共通点4つ

- ① 役割・範囲を明確にする(便利屋化を防ぐ)
- ② 地域への制度説明が徹底している
- ③ 月次面談など、伴走体制が強い
- ④ 任期後を見据えた支援が早い段階からある



【第1節】地域おこし協力隊制度とは



「結局、地域も行政も“説明不足”がトラブルの元やな。」

「岩出市は制度説明を丁寧にする方針なので、ここは強みになりますね。」



「丁寧な説明は大事よ～！
僕も“好きな食べ物は？”って聞かれたら
好きな唐揚げランキングと、その理由を丁寧に半日かけて説明するもん！」

「聞かれてない。」



【第1節】地域おこし協力隊制度とは

1-4 岩出市が制度導入した目的



「改めて、岩出市が制度を導入した理由を住民向けにも説明したいですね。」

「岩出市が導入した理由は4つや。」

- ① 駅前活性化・観光振興を加速させたい
— 観光案内所整備、駅前賑わい創出
- ② 若い世代の視点で地域を掘り起こしたい
— “外の目線”で気づく魅力が岩出には多い
- ③ デジタル発信の強化
— SNS・特設サイト・ARなどの取り組みを伸ばしたい
- ④ 地域団体の担い手不足
— 高齢化により“次の世代”が必要になっている



「わしら観光協会も、
“若いもん来てくれへんかなあ...”ってずっと思ってたんや。」

【第1節】地域おこし協力隊制度とは



「私たち協力隊は、その“未来の担い手候補”……。」

「候補であって“担い手そのもの”とは限らん。
“一緒に考える仲間”として入ってもらうんや。」



「仲間ってええなあ～。
僕にも唐揚げ仲間ほしい！
一緒に唐揚げ屋めぐりしたい！」

「課長は別のネットワーク作って。」

